



ここまでできる 最新CT・MRI検査術シリーズ

第7回 部位別の検査の適応 - 骨盤部 -

今回は、骨盤部についての CT と MRI について述べていきます。骨盤部の臓器は泌尿生殖器と消化管とその他になります。

前立腺

前立腺癌については、小さい場合はほとんど画像で捉えることは困難です。ある程度の大きさがあれば MRI で描出することも可能ですが、PSA 高値の場合の前立腺癌否定は MRI でも困難です。

前立腺癌は CT よりも MRI のほうが描出能はよいといわれ、病期診断には MRI を施行しますが、リンパ節転移や遠隔転移の有無の検査は CT のほうがよいです。

子宮・卵巣

子宮や卵巣も MRI のほうがよいです。癌の検索には造影を行います、子宮内膜癌は特に MRI でダイナミック造影を行えば、早期でも描出できることもあります。

膀胱

血尿の検査には膀胱のみならず、腎や尿管の検索も必要になりますので、CT のほうがよいです。

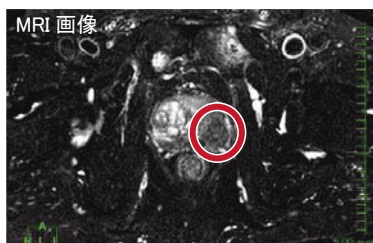
消化管など

直腸など消化管も骨盤部にありますが、消化管に限れば造影検査や内視鏡が第 1 選択になります。骨盤部単独で検査の対象になることはありません。

たとえば下腹部痛が主訴で臓器が特定できない場合の検索は CT がよく、腹部および骨盤部両方の指示をお願いします。

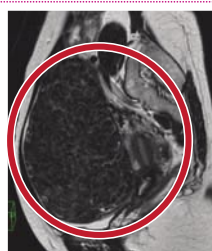
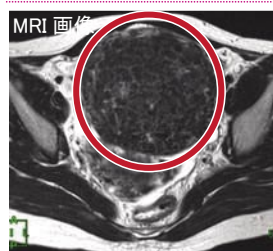
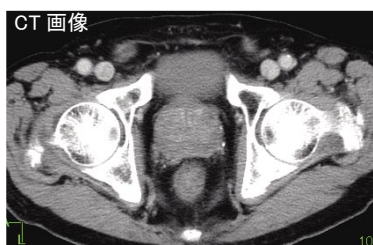
以上のように、CT と MRI を比較すると、前立腺・子宮・卵巣と臓器を限れば MRI のほうがよいです。臓器を特定できない場合や癌の病期診断（N 因子 M 因子）には CT のほうがよいです。また、前立腺・子宮・卵巣については腔内エコー（経直腸、経膣エコー）のほうが勝る場合もあります。

画像サンプル ※ホームページではカラーでご覧いただけます。



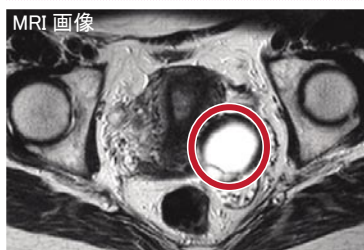
前立腺がん:

- MRI の T2WI にて低信号域としてみられる。
- CT では指摘は困難なことが多い。



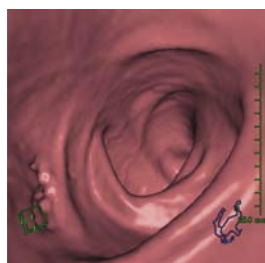
子宮筋腫:

- MRI の T2WI にて不均一に低信号の像を示す。



卵巣のう腫:

- MRI の T2WI にて均一に高信号の像を示す。



大腸仮想内視鏡撮影:

- 注腸や CF と同様の前処理を行い、CT にて内視鏡様の画像が得られる。

お問合せ先

広島原対協健康管理・増進センター ☎082-243-2451(代表) 8:30~17:00

予約受付先

コールセンター ☎0120-14-7191(フリーダイヤル) 8:30~19:30